資源エネルギー環境広報



発行: 2018.8.10









24時間365日電源が入りっぱなしの冷蔵庫は電気代が気 になるところです。省エネにつながる賢い使い方を紹介します。

- ○冷蔵室は隙間を空けて、引出冷凍室は隙間なく入れる
- ○温かいものは冷ましてから入れる
- ○冷蔵庫の周囲には適度な隙間を確保する 等



平成30年8月号







エネにゃん



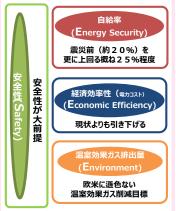
新しいエネルギー基本計画が閣議決定されました ~ 第5次エネルギー基本計画 ~

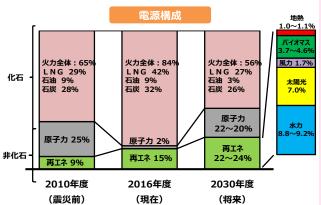
政府は、2030年度までの中長期的なエネルギー政策の方向性を示す「エネルギー基本計画」を4年ぶりに改定し、第5次エネルギー基本計画 を7月3日に閣議決定しました。本計画では、エネルギーを巡る国内外の情勢変化を踏まえ、2030年、さらに2050年を見据えた長期的視点を 新たに盛り込んだものとしました。以下、概要を紹介します。

①2030年エネルギーミックスの確実な実現を目指す ~ 温室効果ガス2030年度に26%削減(2013年度比)!~

- エネルギー政策は、3E+S (安定供給Energy Security、経済効率性の向 上Economic Efficiency、環境への適合Environment+安全性Safety) を基本的な視点としています。この4つの視点をバランスよく実現しなければなり ません。
- ○エネルギーにはそれぞれ強みと弱みがあり、すべての面で完璧なエネルギーは、残 念ながらありません。エネルギー源を海外からの輸入に頼っている日本(2016 年度エネルギー自給率8%)においては、3E+Sの原則のもと、エネルギー源ご との特性を踏まえ、バランスよく組み合わせる「エネルギーミックス」が必要です。

<3E+Sの政策目標>





②2030年を目途としたエネルギー源ごとの対策

2030年のエネルギーミックスへ向けた対応は着実に進展していますが、道半ばの 状況。引き続き、3E+Sの基本に沿って、2030年のエネルギーミックスの確実な実 現へ向け、エネルギー源ごとの対策等を深堀し、着実に推進していきます。

省エネ等

再エネ・原子力・化石燃料 に並ぶ第4のTネルギー源に

①産業・業務部門の深掘り -企業間連携による省エネ

②貨物輸送の効率化 荷主・輸送事業者の連携化

-EV·PHV/ FCVの普及加速

③業務・家庭部門の深掘り -機器間連携による省エネ

-住宅・ビルのゼロ・エネルギー化

4)水素の更なる利活用 -水素基本戦略の着実な実施

⑤低炭素な熱供給の普及

-熱の面的利用等

再エネ

主力電源に

①発電コスト低減

-国際水準を目指す

②事業環境を改善 -規制のリバランス 長期安定的な電源へ

③系統制約解消へ -「新・系統利用ルール」の創設

4 調整力を確保

-広域的・柔軟な調整 発・送・小の役割分担整備

-カーボンフリー調整力の開発

原子力

依存度低減、安全最優先の 再稼動、重要電源

①更なる安全性向上

-自主的安全性向上のための「新組織」の設立と 行政等によるサポート強化

②防災対策·事故後対応強化

-新たな地域共生の在り方の検討

③核燃料イクルバックエンド対策

-国内事業者間連携・体制強化と国際連携

④状況変化は肌た立地地域が応 -短期から長期までの柔軟かつ効果的な支援

⑤対話・広報の取組強化

-データに基づく政策情報提供と対話活動の充実

⑥技術・人材・産業の維持・強化

-安全を支える人材と知の維持へ

火力・資源 火力の低炭素化・

資源セキュリティの強化

①高度化法・省エネ法の整備

-非化石価値取引市場を創設等

②クリーンなガス利用へのシフト -コジェネの更なる高効率化等

③資源獲得力強化 -FV普及に備えた鉱物資源確保

-国際資源マーケットの育成・活用等

④有事・将来への強靱性強化

-燃料供給インフラの次世代化 -天然ガスサプライチェーンの強化等

5国内資源・技術の有効活用

大規模地熱発電の開発促進 -国産資源開発等

横断的課題(システム改革・グローバル展開・イノベーション)

自由化の下での経済性(競争の促進)と公益性(低炭素化等の実現)の両立、海外展開促進、AI/IoT利用等

- ※詳細は、以下のURLをご覧ください。
- ◆第5次エネルギー基本計画

http://www.meti.go.jp/press/2018/07/20180703001/20180703001.html

◆長期エネルギー需給見通し (エネルギーミックス)

http://www.meti.go.ip/press/2015/07/20150716004/20150716004.html

<総合エネルギー広報室>

シリーズ 事業所訪問 ④

「北海道のエネルギーを支える企業等」

~ 再生可能エネルギー導入を支える大型蓄電池 北海道電力・南早来変電所 ~

北海道で年々導入量が増加している太陽光発電や風力発電など再生可能エネルギーは、天候などによって出力(発電量)が大きく変動するため、需要に合わせて発電することができないという課題があります。そうした再エネの不安定性という課題を解決する装置として期待されているのが「蓄電池」です。

今回は、大型蓄電システムの実証実験をしている南早来変電所を取材しました。

◆ここではどんなことをしていますか?

天候などによって出力が大きく変動してしまう太陽 光発電や風力発電といった再生可能エネルギーの 導入に対応するために、大型蓄電池を変電所に 設置して、電力の品質維持に最適な運用方法を 実証しています。



実証実験設備専用建屋 (広さは小中学校体育館の4倍程度に相当!)

◆どうして蓄電池が必要なのですか?

電力は、発電と使う量が常に同じである必要がありますが、太陽光発電や風力発電の出力は気象や気候によって変動します。その変動を蓄電池によって充電・放電することで、その影響を緩和するために蓄電池が

◆どのくらいの電気を貯めることができますか?

1万5千kWで4時間貯めることができます。たとえば、30Aの契約をしている一般的な家庭だと、5,000世帯の電力を4時間賄うことができます。



建屋内には電気を貯めておく 電解液タンクが130本もあります

◆業務でご苦労されたことはなんですか?



必要となります。

当変電所のレドックスフロー電池は世界最大規模であるため、反響が大きく、驚いています。地域の学生や海外の大学の先生など多数見学に訪れます。見学者に合わせたわかりやすい説明をすることに気を配っています。

取材にご協力いただいた 北海道電力㈱苫小牧支店松枝さん

<総合エネルギー広報室>

平成30年度「わたしたちのくらしとエネルギー」かべ新聞コンテスト募集中

経済産業省資源エネルギー庁では、平成30年度「わたしたちのくらしとエネルギー」か べ新聞コンテストを募集しています。

本事業は、小学生のエネルギー問題に対する関心と当事者意識を喚起するとともに、学校や家庭・地域における実践行動を促すことを目的に実施し、優秀な作品に対して表彰を行います。

【内容】「わたしたちのくらしとエネルギー」をテーマとして、エネルギーに ついて調査・取材したことを、かべ新聞の形式でまとめる。

【対象】 小学校4~6年生(2名以上のグループで作成)

【締切】平成30年10月12日(金)当日消印有効

【応募・問い合わせ先】

株式会社朝日広告社 エネルギー教育推進事務局

TEL: 03-5439-6636

詳細は、以下のURLをご覧ください。

http://www.energy-modelschool.jp/kabeshinbun/

10 / 12 (b) | 1 / 12 (b) | 1

<総合エネルギー広報室>

「コージェネ大賞2018」 募集中

(一財) コージェネレーション・エネルギー高度利用センターでは、コージェネレーションシステム※(以下「コージェネ」という。)の社会的認知を図るとともに、より優れたコージェネの普及促進につなげることを目的として、優れたコージェネの導入等に対して表彰を行います。

- ※コージェネレーションシステム:天然ガス、石油、LPガス等を燃料として、エンジン、タービン、燃料電池等の方式により発電し、その際に生じる廃熱も同時に回収するシステム。
 - ■応募区分:民生用部門、産業用部門、技術開発部門
 - ■応募期間:平成30年7月2日(月)~8月31日(金)

【応募・問い合わせ先】

(一財)コージェネレーション・エネルギー高度利用センター コージェネ大賞事務局 TEL:03-3500-1612 詳細は、以下のURLをご覧ください。

https://www.ace.or.jp/web/qp/qp 0010.html



<ガス事業室>

問い合わせ先

経済産業省 北海道経済産業局 資源エネルギー環境部 総合エネルギー広報室

TEL: 011-709-2311 内線: 2634

E-mail: hokkaido-sogoenergy-koho@meti.go.jp